

# 【第3学年】児童の課題及び授業改善策

＜令和2年度＞

	児童の実態	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自分の経験したことや考えたことについて話したり聞いたりする力に個人差があり、苦手な児童への指導が必要である。</li> <li>◆ 昨年と比較して新出漢字が多く、知識の定着に大きな差がある。</li> <li>◆ 文章を正しく読み取る力をつける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 対話場면을意図的、計画的に設定する。話す内容を具体的に示したり、話を聞くときに注意することを、校内研究で作成した掲示物を用いて伝えたりする。</li> <li>○ 漢字ドリルや動画を用いた漢字指導などを活用し、継続した練習に毎日取り組ませる。小テストを繰り返し行い漢字習得の定着を図る。</li> <li>○ 毎日音読に取り組み、正確に文章を読む力を身に付ける。主語・述語に注目して文の内容を読めるようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 資料を読み取り、活用する能力に個人差があり、苦手な児童への支援が必要である。</li> <li>◆ 社会科の学習で学んだことと、自分の生活をつなげて考えることが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な地図の活用の仕方や資料の読み取り方法について指導する。</li> <li>○ 学習のまとめとして新聞を書いたり、工夫して発表したりする事を通して自分の考えをもたせるとともに、自分の生活につなげる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 四則計算を苦手とする児童がいる。基礎的な力をつけていくためにじっくりと取り組む時間をとる必要がある。</li> <li>◆ 図形に関する用語や知識の定着が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別指導が必要な児童へは、個別の課題を明確にし放課後チャレンジ教室等を活用し理解を深めさせる手だてとする。</li> <li>○ 文章問題など、問われていることを把握し、内容の理解を深めるために、絵や図、数直線図を活用する活動を積極的に取り入れる。</li> <li>○ 図形の学習の際に、既習の事項を復習するとともに、毎日の家庭学習として、計算ドリルの反復練習に取り組みせていく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 観察や実験結果を考察する際に、科学的な視点に基づく考察が出来ていない児童もいる。比較しながら調べたり、疑問をもって課題解決していったりする経験を意図的に設定していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共通点と差異点の比較といった科学的な視点について伝えると共に、課題把握から結果・まとめまでの学習の流れを意識させる授業を繰り返し行う。また、ノート指導などを通して探究の過程の流れを身に付けさせる。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自ら課題を設定する力や、課題解決の見通しをもつ力が十分ではない児童がいる。</li> <li>◆ 集めた情報を文章にしたり、まとめたりする力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前に計画を立てる等の学習方法や資料の収集方法、結果のまとめ方を具体的に指導する。</li> <li>○ まとめ方を具体的に示したり、自分の考えや分かったことを整理する方法を体験させたりする。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 意欲的に楽しく活動に取り組んでいる児童が多いが、表現の仕方を自分から考え工夫したりすることのできる児童は、まだ少ない。</li> <li>◆ リコーダーへの興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいるが、タンギング・運指の十分でない児童への指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人の表現を認め、よい意見や表現の工夫を紹介し、全体に広げ互いに学び合い高め合えるような指導の工夫をする。</li> <li>○ 思ったことや感じとったことは、比べ合ったり、発表し合ったりし、自分と他とを比較・共有できるような学習活動の工夫をする。</li> <li>○ リコーダーでは、児童の実態に応じた個別指導と、反復練習を行い、ペア学習、グループ学習など互いに教え合う場の設定をする。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 意欲的に楽しく活動に取り組んでいる児童が多い。</li> <li>◆ 学習のめあてを意識し、表現方法を自分なりに工夫する力を育てていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の流れをスモールステップで掲示し、より主体的に自信を持って活動できるようにする。</li> <li>○ 様々な材料や、いろいろな道具を使う経験ができるような題材設定を工夫する。</li> <li>○ 友達と作品を見合い、お互いのよいことなどを伝え合い、創作意識を高めるようにする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ボール運動や器具を用いた運動では、運動技能の個人差が大きい。</li> <li>◆ 運動の特性などに合わせて工夫して運動したりルールを工夫したりすることが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スモールステップで技能を習得できるような学習活動や、習熟度に応じた運動場を設定することで、技能が習得できるようにする。</li> <li>○ 体育ノートのふり返りを活用したり、個人の考えを全体で共有しながら学習を進めたりすることで、工夫して運動することの楽しさを感じられるようにする。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 外国語に興味があり、意欲的に活動に取り組む児童が多い一方、日本語との違いに不安感や苦手意識をもっている児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インプットの時間を十分に確保し、外国語に慣れ親しませるとともに、実際に会話をする場面を設定し、必要感をもって外国語を使えるように指導する。</li> </ul>